

●紙料益軟勢

月入
▲翌 入社計今六百餘僱傭別院變
もざる唱へ

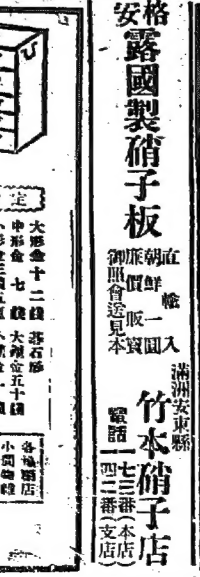
仁
現物市場

底強き商狀を示現し居れり
は顔目判高より見たる
軟派に頗る多思ふ人衆にはある

盛んにこれ不見に陥るが如き
ないのだから安い處は買拍よの
策であると言へる強氣者もある

んき●服病●齒痛●神●脚氣●
 東京●浅草●花川●戸●
 東●陽●
 リウ●マ●チ●
 ウ●マ●チ●

御報次第案内書送
一絲十枚用込料五持給
京城黃金町二丁目 國民興産株式會社 京城出張所



三ツサイダー
矢平野水

全國一の生産高を有する最も衛生的の飲料であります


宮内省御用達

帝國礦泉株式會社

御大典記念飲料

コロナ

風味佳良にて高尙なる飲料でありますから御愛飲を願ます


 內科
 胃腸病科
 診察時間 午後七時至九時
 石川醫院
 京坂本町二丁目
 電話 專科 三三九番
 門診 三時至六時
 入院 九時至十二時

宮本武藏

第六十回

浪上義三郎速記



吉岡アハヤ打たれたるかと思ひの外、
ビラリ身を転したる其早き、餘れる
木劍を竹刀にてパツチリ受ける、宮
本仕振じたりと木劍を引かんとすれ
ば、這は如何に竹筥が木劍に密着して
旋れなく、旋振さうとすれば彼方へ
引張られる、引かんとすれば手許へ
一緒に近人つて来る、之を吉岡の糊
付流といふ、南無吉岡の糊付流に
陥つたり、木劍が捲落されては、此は
じと考へたるから宮本、右の木劍を
構へて變へる、吉岡遠き手打込んで
ツチ十字に受け止めた、十字とい
ふのは左劍を立て右劍を横にして敵
の劍を間へ挟んで受ける、受けて置
いて左劍が右劍を服いて敵を打つ、
之は宮本の得意とする所だ、誰も此
十字を破つたものはない、然るに吉
岡の竹刀を受け止めるごうした機
會が右劍が保たないヤツ、と聲を
懸けて居る中にズル／＼と小手が下
がる十字が崩れるから宮本飛退つて
行く、吉岡遠き手打込んで

其儘にして置いてたの木鉤を振上げ一足懸上つて吉岡を打たんとする、吉岡心を得たりと體を引いて今度は宮本の左鉤をビタリ押へる、右鉤が旋れたから宮本、袖たゞ真向から打込んで来る、寢房も左右一度に押へることは出来なから打込んで来る宮本の木鉤を繰つて手許へ飛込た、一尺三寸の竹刀を振上げて宮本の面門を撃つて打たんとする、宮本左鉤を持って面門を圍ひ、右鉤を振つて防ぐ、双方共に名聲の技倆、互ひに秘術を盡しての勝負に大肉記憶を初め家中一同酒に酔へる如く又夢の中に遊ぶ如く愉愜と見て居る、其時申如何なる遠やあつたり吉岡又三郎大喝一聲真向から打込んで来る竹刀、宮本さしつたりと飛退いて来るから再び十字に受ける、所どういふ諺か十字が保たないや、手が下つて来る、之は不思議の事あるもの、吉岡は天下の名人、まだた分の技倆が足らんかと考へたが宮本、御筆すれば打たれるに依つて飛退、十字を崩す、又たたび左右一度に上げて吉岡の真向から打込んだ、岡飛鳥の如く體を交すて流れる宮本の右鉤を目撃して竹刀を持ってビリ打つた、ハツと思つて木鉤を以てたが間に合はね、赤煙を以つてつた木鉤を物の見事に真中から切て落した、恰かも鎧刀を以て切てさく、早くアツと飛いたが流石、本、手早く左鉤を右に取直して飛、の如くに飛込んで来て打下す、吉、交す間がないから後ろへ掻き倒れ



新荷
六音
號著
普著



NIPPON GLOPHONE

京 城 本 町 日 本 蓄 音 器 商 會

分らない、不思議に思召したか、
大一人に誘はる事あり、近う参
て仰せられる、宮本櫻の木から飛
りて吉岡に一大致し、隔た御殿の
み伏すに、大コレ、只今の立
何れが勝ち何れが負けか、予には
向相からん、武ハツ只今の立合は
園の勝て捕縛負てござい、升大
房其方の勝か、兼、エヌ手前は負て
本の勝でございます、大同じや
な事を申して居る、兩方負たも
負があるか、武藏は又急に櫻の木
飛上つたのは不思議である打たれ
中に参つたぞ申したのは何故であ

齒科專門 大正齒科醫院

か、武^ぶ恐^{おそ}れ乍^はらに是迄運動試合を仕
りましたが今日程程しき立合を以て
た事はございせん、竹刀を以て
剣を切るさういふ吉岡の技倆は廣大
遊、而己ならず手前、幼年より工順
たしました十字を二度迄も破られ
したば吉岡の技倆非凡なに依る
到底手前の對手はないと心得ま
すを懸念いたしました、大「クム、吉岡は
何や、」私とも永年立合をいた
ましたが宮本程の武然者に出會つ
事はございせん、機に臨んで戦
する事敵の如く今半刻も暇を續
ける時は必ず角るに相違ございませ
ん、木劍は切落しましたが危きに
ぞ櫻の櫓に飛上りました早業、
外人間の業とは見ゆず遠く皮ふ處
ございません」

舊五月七日乙亥
本命七赤西取大安

[illegible]

再三宮内省御買上
の光榮を辱ふべり

東京で一番売れる美人など
木一力一液

木一力一液を朝夕
の洗面入浴後に御
召し遊ばせば

色を白く、キメを細かにし
 アレを防ぎ、色艶を好くし
 日ヤケ、白粉ヤケを防ぎ
 子供衆の皮膚を丈夫にし
 性来色の白いやうに見え

ます、又
■**白粉下**、**白粉のトキ水**によく

男女力の絶大後には逆し
香よく香水代用をする

等全く他に類のない優
た効果をもつて居ます

●價小瓶一圓 中瓶四圓 大瓶八圓
●別所外地 八折 ●諸國 三折
●本邦各地 二折 ●郵費在內

●切手代用は、郵便局に送付すれば可也

東京和泉橋
堀越嘉太郎商店
振替東京三四一一八

りん病



本藥は幾多の經驗せしむる所故
慢住わきも治癒せしむ直ぐみ給る

(價) 二圓二角五分 四圓二角五分 六圓二角五分 八圓二角五分 十圓二角五分 十二圓二角五分 十四圓二角五分 十六圓二角五分 十八圓二角五分 二十圓二角五分

本舖……名古屋市中區小野通……小林盛大堂
大阪平野町小林大藥房 東京横井龍角散
國寶閣……全國藥店若無は 若金飛送郵券不著

閑靜にして避暑遊宴に宜し

温泉陽温泉

安東大連天津航路

大連市
大連汽船株式會社

の利便あり

每月天潮丸 (一、三〇〇噸)
六回濟通丸 (二、一〇〇噸)

安東一等金	大連間三等金	安東一等金
五拾圓	五拾圓	五拾圓
安東二等金	大連間二等金	安東二等金
五拾圓	五拾圓	五拾圓
安東三等金	大連間一等金	安東三等金
五拾圓	五拾圓	五拾圓
安東四等金	大連間四等金	安東四等金
五拾圓	五拾圓	五拾圓
安東五等金	大連間五等金	安東五等金
五拾圓	五拾圓	五拾圓
安東六等金	大連間六等金	安東六等金
五拾圓	五拾圓	五拾圓
安東七等金	大連間七等金	安東七等金
五拾圓	五拾圓	五拾圓
安東八等金	大連間八等金	安東八等金
五拾圓	五拾圓	五拾圓
安東九等金	大連間九等金	安東九等金
五拾圓	五拾圓	五拾圓
安東十等金	大連間十等金	安東十等金
五拾圓	五拾圓	五拾圓

出張所
安東縣財神廟街
天津獨逸租界



流行のお化粧

近頃専ら流行して來ましたのは、上品で濃酒した新東京式お化粧で御座います。新東京式お化粧には最もレイト白粉が適當で、恐らくレイト白粉程、ピツタリ流行化粧に達つたものは御座いません。それは、閉り伸びのよいのは勿論、附けて落附きがよく光澤があるので、それが何さとも云へず奥床しくて粹なのでレイト様白粉の化粧感れる事は、真に目限めるやうで御座います。さて此季の何のお化粧は、淡化粧で殊に淡化粧には新東京式が際立つて美しく御座います。それにはレイトヂェリーをお顔に引いてレイト白粉をおつけになれば、注文通りのお化粧が出來ますが、要は、レイト洗粉で洗つた肌へレイト白粉だけおつけになつても美しう御座います。外出の時には化粧感しにレイト打白粉か紙白粉を持つておいでになるのを忘れなすつてはいけません。

新東京式のお化粧が
思ふ様美しく出来る

白粉

京 東
贊 尾 平



青嵐を馳る二十二里

一、京城より店幕里 楊柳依依たり春川の路

「朝日新聞」に於いて、此の春の序、上り、
「朝日新聞」に於いて、此の春の序、上り、
「朝日新聞」に於いて、此の春の序、上り、

春川街道並木

春川街道並木、
春川街道並木、
春川街道並木、

氷の穴に住む

氷の穴に住む、
氷の穴に住む、
氷の穴に住む、

南極探検隊

南極探検隊、
南極探検隊、
南極探検隊、

▲官兵邦人を襲ひ 五百圓を強奪す
▲春洋丸の災害
▲電線を切断す
▲浸水して沈没
▲六人を斬り付て自殺を企つ

▲遊覧會の餘興
▲吉田武蔵木下藤
▲主客博位の宴目
▲養成所足球隊
▲運動欄

▲運動欄
▲運動欄
▲運動欄

▲運動欄
▲運動欄
▲運動欄

▲遺職事件
▲遺職事件
▲遺職事件

▲遺職事件
▲遺職事件
▲遺職事件

▲遺職事件
▲遺職事件
▲遺職事件

▲遺職事件
▲遺職事件
▲遺職事件

▲遺職事件
▲遺職事件
▲遺職事件

▲遺職事件
▲遺職事件
▲遺職事件

▲遺職事件
▲遺職事件
▲遺職事件

▲遺職事件
▲遺職事件
▲遺職事件

朝日新聞 京日案内 支店所在地 支店所在地 支店所在地

[illegible]